

水道水源開発等施設整備事業の再評価報告書の概要等

(単位：千円)

事業者名	南房総広域水道企業団		補助区分	水道水源開発施設整備費 特定広域化施設整備費		
事業名称	南房総広域水道用水供給事業		再評価実施時期	平成18年度～平成19年度		
事業概要	南房総広域水道用水供給事業は、南房総地域の水需要に対応するため、治水・利水目的の多目的ダムである大多喜ダムから水道用水としては14,800m ³ /日の開発水量と房総導水路からの導水43,200m ³ /日を合わせて58,000m ³ /日を取水し、55,060m ³ /日の送水を行うため、大多喜ダムを建設すると共に浄水場・送水管等を整備するものである。					
対象事業	区 分		水道水源開発施設整備費		特定広域化水道施設整備費	
	事業概要		大多喜ダム建設事業 (夷隅川総合開発)		浄水場、送水管等整備費	
	完成予定		平成22年度		平成22年度	
	総事業費		14,500,000		60,780,971	
	利水者負担分		3,538,000 (24.4%)		60,780,971 (100%)	
	内 訳	国庫補助金	1/2	1,769,000	1/3	18,891,265
		県補助金	1/8	442,249	1/4	14,178,447
		市町村出資金	1/3	1,179,328	1/3	18,942,304
		企業債	1/24	135,328	1/12	7,707,894
		自己財源		12,095	補助対象外全額	1,061,061
進捗率		46.0%		96.9%		
主な残事業		ダム本体工事		ダム～浄水場導水管布設		
採択後の事業をめぐる社会経済状況等の変化	少子高齢化により水需要が減少すること、南房総地域の市町村合併の進展による効率的な水運用が可能になったこと、危機管理意識の高まりによる自己水源確保の動きに変わったこと等により、水需給の推計では既存水源で対応できる結果となった。					
採択後の事業進捗状況	大多喜ダム建設事業の進捗状況(平成17年度末)は、事業費ベースで約46%であり、未買収用地がダム本体工事にかかる部分で、ダム本体工事の着工は用地取得後となり、協定上の平成22年完成は困難な状況と考えられる。 特定広域化施設整備事業の残事業は、ダムから取水するため取水及び導水施設等の工事であり、大多喜ダム建設事業の進捗状況による。					
コスト縮減策及び代替案立案の可能性	コスト縮減 利水者として事業を継続する場合と中止する場合について、費用比較を行った結果、利水者としては中止した方が経済的である。 代替案立案の可能性 水需給は、現在の企業団給水量と構成団体自己水源充当量で対応可能である。 したがって、代替案の検討は不要である。					
再評価の総括	水需給は、受水量の最大が平成24年度の40,146m ³ /日(現給水能力42,330m ³ /日)であり、その後水需要は減少が続き、受水量も減少に転じることから既存水源で対応できる。					
対応方針	利水者としては、ダム事業への参画を中止するものとする。 また、本事業は千葉県県土整備部との共同事業であることから、速やかに再評価の結果を千葉県県土整備部に報告し、撤退に伴う対応策を協議することとする。					
第三者の意見	利水者としては、ダム事業への参画を中止することが妥当と考える。 なお、本事業を中止する場合は、治水事業者と協議しながらダム建設予定地域への配慮を要望する。					